

まとめの内容：

- (1) 大型研究計画（10年間の計画）への応募
- (2) 平成 26 年度の概算要求
- (3) サイトセレクションの議論
- (4) 日本の関連観測の将来計画

(1) 大型研究計画（10年間の計画）への応募

- ・ 2011 年上旬の大型研究計画提案時には「極域科学のフロンティア」の中に「両極大型レーダー」として位置づけて応募していた内容を、「太陽地球系結合過程の研究基盤形成（代表津田先生（京大）」の中に EISCAT_3D 計画を位置づける様に変更。赤道 MU レーダーや広域ネットワーク観測（光学機器や磁力計観測など）と組み合わせた研究計画を提案。
- ・ PANSY の運用予算計画については「極域科学のフロンティア」の中に含めている。
- ・ 大型研究計画提案提出締切りは 3 月 31 日（日）であり、EISCAT_3D 計画を含む提案書の完成に向けて準備を進めている。3 月 28 日（木）に Skype 会議、3 月 30 日（土）に京大にて最終打ち合わせ。
- ・ 時間は限られているが、EISCAT_3D に興味を持つ/期待している研究者の意見を反映できるように、提案内容のフィードバックをかける予定。（注：研究集会後の 3 月 29 日に、議論参加者に対して、EISCAT_3D に関する記述案を連絡し、それに対するコメントを基に修正作業を行った。）

(2) 平成 26 年度の概算要求

- ・ 平成 26 年度の概算要求項目として、EISCAT_3D を極地研から情報・システム研究機構にあげることに。レーダー建設費の分担予定額（15%）と運用経費。
- ・ 現在は「概算要求の概要」の資料（1 ページ）を用意済み。今後概算要求資料（4-6 ページ程度）を必要とする（2013 年 4 月？）。5 月にセレクションが開始。
- ・ 魅力的な提案書を作成するためには、どのような体制・方法で資料を作成していくのがよいかを議論。まずは情報共有を速やかに行うことが必要。

- ・ EISCAT_3D の予算化には、大型研究計画ロードマップへの記載が必要と考えているが、概算要求の最終結果が明らかになるのは 2013 年 12 月であり、大型研究計画の最終決定（2014 年 3 月）よりも早い。この点については、今年度以降も概算要求をしていくことや補正予算で拾われることも意識してスケジューリングを立てている。
- ・ ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの EISCAT_3D 建設予算要求と足並みを揃えることが重要。新協定案（2014 年から開始を想定）の合意書作成にも密接に関係。

(3) サイトセレクションの議論

- ・ Bjornさんからの気象データ情報の文献（トロムソ大がSkibonに天文台を作る際に作成した資料）を基に、有力なコアサイト候補地であるTromsoとSkibotn の天候の定量的な違いを説明及び議論。
- ・ Tromso よりもSkibotn の方が、「快晴」の割合が高い（1ヶ月間にTromsoは約3日、Skibotnは約8日）。「少し曇り」の割合を含めると、Tromsoは1ヶ月間に約16日、Skibotnは1ヶ月間に約18日となる。
- ・ Cesar La Hoz 先生の説明より、「科学的には、ロケットとの共同観測が容易でかつ晴天率が高いSkibotn の方が、コアサイトとして良い。ただし、建設時の様々な困難さを考えると、（トロムソ大としては）Tromso の方が実現可能性が高い。」
- ・ 2013年3月にTromsoとSkibotnにおけるキャンペーン観測を1週間行ったときには、両方も晴れあるいは両方とも曇りであった。
- ・ 日本として、どの候補地をコアサイトとして望んでいるか（その理由や優先順位を含め）を取り纏めて、EISCAT_3Dユーザー会議などの場で示していけるように。
- ・ 関連地上観測装置との連携も重要となる。

(4) 日本の関連観測の将来計画

- ・ STEL グループが計画している北欧におけるレイリーライダーやミリ波の将来観測計画を紹介。STEL の概算要求事項として出す予定（ただし、平成 26 年度は順位は低い）。（北欧に展開してきている現在の観測装置では観測できない）成層圏から中間圏にかけての温度や大気微量成分が測定可能になり、高度方向にさらに拡大した観測が可能となる。レイリーライダーの開発と設置を含め、実現までにはある程度時間がかかると思われる。